

近畿地方整備局 九頭竜川ダム統合管理事務所
資 料 配 布

配 布 日 時	平成18年5月1日(月) 14時00分
------------	------------------------

件 名	真名川ダム湖内での水面変色について (第2報)
-----	----------------------------

概 要	●水面変色の原因は、緑藻類のクラミドモナス属であることを確認しました。
-----	-------------------------------------

取 扱	_____
-----	-------

配布場所	福井県県政記者クラブ 大野市 情報広報課
------	-------------------------

お問い合わせ先

近畿地方整備局 九頭竜川ダム統合管理事務所
管理課長 阪口 繁 (内線331)
電話 0779-(66)5300 (代)

真名川ダム湖内で緑藻類による 水面変色について

- 4月26日の巡視中に、真名川ダムから2.8km～3.6km付近で緑色に変色していることを発見し、変色の原因調査を行いました。
- 本日、午前9時の巡視でも、水面が緑色に変色していることを確認しています。場所は、若生子大橋下流で筋状に発生しており、縮小傾向がみられました。又、ダムサイト付近でも同様に変色を確認しています。
- (財)北陸公衆衛生研究所による分析の結果、変色原因は緑藻類のクラミドモナス属と判明しました。詳細な種の同定については、種類数が極めて多く、類似数が多いため、種の識別は困難である。
「クラミドモナス属」は池沼、水溝、水溜りなど富栄養の水域に多いが、残雪の上に生育する氷雪藻として知られている種もあります。
「クラミドモナス属」は、単独球形で等長の2本の鞭毛を持ち、収縮胞、核、ピレノイドを有し、細胞の大きさは直径17～20 μm で小型である。発生の原因として、雪解けの増水による栄養塩を含んだ濁水の流入と日照時間・水温の上昇等の条件が重なり、異常増殖して変色水域が発生したものと推察されるが、詳細なメカニズムについてはまだ解明されていません。
又、同研究所所長によると、この種は人体や生物、魚類等への影響を与えるものではないとの見解です。



緑藻類クラミドモナス属 顕微鏡写真

<用語について>

- 収縮胞
細胞内にみられる液胞の一種で、拡張と収縮を周期的に繰り返す。藻類体内の水分調節に働くと考えられている。
- 眼点
眼点を持つ種はいずれも正の走光性を示すことから、光の受容器であると考えられる。
- 鞭毛
遊泳性の種が持つ運動性の細胞小器官。クラミドモナス属は先端に2本の鞭毛を持つ。
- ピレノイド pyrenoid
デンプン形成体ともいう。
葉緑体の中にある球状の構造。顕微鏡では白く光った粒状に見える。

